

なみだで かいたねずみのえー 雪舟ー

せつしゅう

「こら 雪舟。また なまけて いるのか。ちゃんと べんきょうを
しなさい。」

ほかの みんなは まじめに おきょうの べんきょうを しているのに、
雪舟だけは、えを かいて いました。えを かくのが だいすきで、
おきょうの べんきょうを して いても、つい えを かいて しまうのです。
「いくら いつても えばかり かいて、ちっとも まじめに とりくまない。
このままでは、だめじや。しつかり はんせいしろ！」

おしょうさんは、そ うい つて 雪舟を おおきな はしらに
しばりつけました。

(まじめに べんきょうを しようと おもうけど、つい えを かいてしまう。
このままでは、ぼくは、りっぱな おぼうさんには なれない……。)



そんなことを　かんがえて　いるうち、雪舟は、かなしくなつて　きました。
めからは　おおきな　なみだが　あふれ、ぽつぽつと　ゆかに　おちました。
やがて、なきつかれた　雪舟が　かおを　あげると、へやの　すみから
いっぴきの　ねずみが、こちらを　みて　いました。雪舟は、そのねずみを
しばらく　みつめて　いましたが、そのうち　しばられた　ての　かわりに
あしの　ゆびを　つかって　じぶんの　なみだで　ゆかに　ねずみの　えを
かきはじめました。

あたりは　すっかり　くらく　なりました。おしおうさんが、そろそろ
雪舟を　ゆるしてやろうと、そつと　とを　あけました。すると、雪舟の
あしもとに　おおきな　ねずみが　いたのです。

「しつ、しつ、あっちへ　いけ！」

おしおうさんが、どんなに　おいはらつても、ねずみは　にげません。

ふしぎに　おもつた　おしょうさんが、

ちかくで　よく　みてみると、なんと

それは、雪舟が　なみだで　かいた

ねずみの　え　だつたのです。あまりの

えの　うまさに　おしょうさんは、

ほんものと　まちがえたのです。

「そんなに　えが　すきなら、えの
べんきょうを　してみるか。」

おしょうさんが、雪舟に　いいました。

雪舟は、しばらく　だまつて　いきましたが、

「はい！」

と、おおきな　こえで　こたえました。



総社市 井山宝福寺所蔵・抜粋

それから 雪舟は、りっぱな せんせいに

せつしゅう

ついて えの べんきょうを はじめました。

そして、とおく ちゅうごくに いき、

えの べんきょうを つづけました。

そのあとも、雪舟は、だいすきな えを

かき つづけました。そして、ひとの

こころに ひびく すばらしい さくひんを

たくさん のこしました。



重文 雪舟自画像
藤田美術館所蔵



国宝 天橋立図 雪舟筆 京都国立博物館所蔵

1 関連的な道徳のテーマ ぼく、わたしを見つけよう！

2 関連的な道徳の学習のねらい

道徳科を要として、生活科の「じぶんたんけん1」「じぶんたんけん2」の学習などと関連を図りながら学習を進めることで、自分のことや自分らしさについて考え、自分らしさや自分のよさを見付けた喜びを感じ、自分を大切にしていこうとする態度を養う。

3 構想図（1月上旬～1月下旬）

【日々の暮らし】

【道徳科】

【各教科等】

【児童の意識】

朝の会

「世界中でたった一人の自分」について先生の話を聞く。

支援1

「じぶんたんけんカード1」に見つけたことを書き加える。

生活科 じぶんたんけん1

「じぶんたんけんカード1」に自分のこと一つ一つ記入する。

支援2

道徳科

主題名 自分らしさってなあに？

内容項目 A 個性伸長

教材名 「なみだで かいた ねずみの えー雪舟ー」

ねらい 自分らしさについて考える中で、自分らしさや自分のよさに気付き、もっと自分のよさを見付けていこうとする態度を養う。

支援3

日々の暮らし・課外 じぶんたんけん2
友達や家族にもインタビューしながら、「じぶんたんけんカード2」に自分がだけのすてきなことを記入する。

支援4

学級活動 じぶんたんけんはっぴょう

「じぶんたんけんカード1・2」に書きためてきたものをもとに、自分らしさについて友達や家の人に発表する。

支援5

- 世界中で自分はたった一人しかいないんだな。自分について考えたいな。

- 自分の名前、顔、好きな食べ物、好きなこと、いっぱい見付けて楽しいな。
- もっと自分について知りたいな。

- 自分らしさや自分のよさに気付くことって、すてきだな。
- もっと自分のよさを見つけていきたいな。

- 友達やおうちの人聞いて、自分のよさをいっぱい見付けたよ。
- でも、苦手なこともあるんだな。

- 自分らしさがいっぱい見付かつてうれしいな。
- たった一人の自分を大切にしていきたいな。
- もっとすてきな自分になりたいな。

4 教師の支援

支援1—道徳的価値に対する構えに高めるために

絵本『ぼくだけのこと』(偕成社)をもとに、「自分は世界でたった一人しかいないんだよ。」と話し、自分自身のことに目を向け、「自分についていろいろと考えていきたい。」という意識をもたせ、道徳的価値に対する構えに高めるようとする。

支援2—心を耕し、課題意識を高めるために

「自分について考えていきたい。」という意識をもったところで、生活科「じぶんのことをふりかえろう」と関連させ、「じぶんたんけん1」(ワークシート1)を示し、取り組ませる。まず、カードに自分の名前、自分の顔、好きな食べ物、好きな勉強など、好きなことを記入させる。カードに記入したことを友達と比べ合うことで、少しずつ自分のことを意識させ、「絵本のように、もっと『ぼくだけのこと』を見つけ、自分のことをもっと知りたいな。」という課題意識を高め、日々のくらしの中でも、「もっと自分らしさを見付けたい。」と思うようになったところで道徳科の授業に入るようとする。

支援3—それまでに抱いた気持ちを道徳科で語るために

導入では「じぶんたんけん1」の活動を思い出し、自分のことをカードに書いているときの気持ちを話し合い、「もっと自分らしさについて考えていきたい。」という課題意識を想起できるようにする。

中心場面として、和尚さんに「そんなに好きなら絵の勉強をしてみるか。」と言われ、黙って考えた後で雪舟が「はい。」と答えた場面を取り上げる。そのときの雪舟の気持ちをワークシートに書き、教師が問い合わせることで、これまで自分らしさについて考えてきたときの自分の気持ちを重ねながら、雪舟の心の中にある疑問、不安、希望、喜びなどを語らせ多面的・多角的な考えを深めるようになる。そして、お経の勉強に集中できず、絵に夢中になってしまい、自分に自信がもてなかつた雪舟が、和尚さんの言葉から、「絵が大好きなことは自分らしさなのかもしれない。」と、だんだんと自分のよさに気付いていく雪舟の喜びに共感することができるようになる。

展開後段では、前段で考えたことをもとに、自分のよさについて考え、「自分のよさをもっと見付けていいな。」「もっと自分について知りたいな。」という意欲をもつことができるようになる。

支援4—道徳科で捉えたことを確かにするために

道徳科で抱いた「自分のよさをもっと見付けていいな。」という思いを受けて、「じぶんたんけん2」の活動に取り組む。「じぶんたんけん1」で見付からなかつた自分について、日々のくらしや家庭学習の中で、友達や家族にもインタビューしながら、自分探検をし、見付けた自分のよさをどんどん書き加えるようになる。教師が「あなたには、～なすてきなところがあるよ。」と個別に声をかけることで、自信をもつてカードに記入できるように支援する。そして、気付いたら、苦手なことも含め、たくさん自分らしさを見付けたことを喜び、自分らしさを実感することができるようになる。

支援5—自分の変容に気付き意欲的になるために

「じぶんたんけんはっぴょう会」をすることで、これまで気付いていなかつた自分らしさについて、あらためて意識できるようになる。特に、自分のよさを教師や友達に認められることで、自分のよさに気付いたうれしさを実感できるようにしたい。そして、家族にも、たくさん見付けた自分らしさについて話をさせ、ほめられたり励まされたりすることで、自分らしさを意識できたことをうれしく感じ、児童一人一人が自分を大切にしたいという思いをもつことができるようになる。

5 要となる道徳科

(1) 主題名 自分らしさって、なあに?

(2) 主題設定の理由

① 内容項目について

中心とする内容項目は、A 個性の伸長「自分の特徴に気付くこと。」である。「個性」とは、他の人と異なる個人特有の特徴や性格である。他の人と異なることを否定的に捉えるのではなく、「自分らしさ」として捉えるようにしたい。また、「個性の伸長」とは、自分の特徴に気付き、長所を伸ばし、短所を補うことで調和のとれた自己形成をしていくことである。児童が自分らしい生き方について考えを深め、将来にわたって自己実現を果たせるようにするために、重視したい内容である。しかし、1年生で自分を意識することや自分の特徴に気付くことは、それほど簡単なことではない。

そこで、まず、自分自身に目を向けさせ、自分の特徴や自分のよさを意識し、もっと自分のよさを見付けていこうとする態度を養っていきたい。

② 児童の実態について

この時期の児童にとって、自分を客観視することはまだまだ難しい。しかし、ほめられたりしかられたりすることで、自分像をおぼろげながら描いている。そこで、関連的な学習の中で、自分らしさに目を向け、自らを探検する気持ちで自分を見つめる活動をしてきた。この活動を通して、児童は、自分を知ることに興味をもってきている。

本時では、自分の得意なことを中心に自分を見つめることで、自分らしさの中身を広げていきたい。そして、自分のよさに気付き、もっと自分のよさを見付けていこうとする態度を養いたい。

③ 教材について

寺で修行をしていた幼い雪舟は、絵を描くことが大好きで、つい仏門の修行がおろそかになってしまふ。見かねて雪舟を柱に縛りつけた和尚さんではあるが、反省中の雪舟が涙と足の指で描いたねずみの絵のすばらしさに心を打たれ、雪舟に絵の道を勧める。雪舟は、和尚さんの言葉によって自分の長所に気付くのであった。和尚さんに絵の道を勧められたときの雪舟の心の中を考えることで、低学年の児童も自分らしさやよさを意識することができると考える。

◇板書例

The board shows a dialogue between a monk (和尚さん) and Sesshu (雪舟さん). The monk asks Sesshu if he likes drawing, and Sesshu replies that he does. The monk then asks Sesshu to draw a picture of himself, and Sesshu agrees. The monk commends Sesshu for his talent and asks him to draw a picture of the monk. Sesshu declines, saying he is not good at it. The monk encourages Sesshu to try again, and Sesshu eventually agrees. The monk then asks Sesshu to draw a picture of the monk again, and Sesshu complies.

○じぶんのよさについてかんがえたこと
◇じぶんらしさや じぶんのよさが わかることは
すきなことだな。

天橋立図

雪舟と 和尚さんの 絵

はしらに しばりつけられたとき
・また、おこられてしまった。
・ちゃんと しゅぎょうをしないと いけなかつたな。
・どうして むちゅうで えを かいてしまうのだろう。

めあて 「じぶんらしさ」についてかんがえよう。
なみだで かいた ねずみのえ — 雪舟 —

雪舟 えをかくことがだいすき

肖像画

◇参考

雪舟（1420～1506年 ※諸説）総社市に生まれ、幼少時、井山宝福寺で仏門に入る。京都の相国寺で画家の修行を重ねた後、周防（山口県）大内氏の庇護を受けて遣明使として中国に渡り、水墨画の画法を学んだ。帰国後は日本独自の水墨画を確立し、その作風は国内・海外で、現在でも高く評価されている。

(3)ねらい

自分らしさについて考える中で、自分らしさや自分のよさに気付き、もっと自分のよさを見つけていくとする態度を養う。

(4)展開

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 「じぶんたんけん1」で感じたことを話し合う。	<p>○ 「じぶんたんけん1」の学習をして、どうでしたか。 ・自分のことがいろいろ分かって、楽しかった。 ・もっと、自分のことを見付けていきたいな。</p> <p style="text-align: center;">「じぶんらしさ」についてかんがえよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「じぶんたんけん1」の活動を振り返り、「もっと自分を知りたい」という思いをもたせ、「自分らしさについて考えていきたい」という課題意識をもつことができるようする。
2 教材「なみだでかいたねずみのえー雪舟一」を読んで話し合う。	<p>○ 柱に縛りつけられた雪舟は、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・また、おこられてしまった。ごめんなさい。 ・ちゃんと修行をしないといけなかつたな。 ・どうして絵を描き出すと夢中になってしまうのかな。</p> <p>◎ 「そんなに好きなら、絵の勉強をしてみるか」と聞かれ、しばらく考え、「はい」と答えた雪舟は、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・修行をやめて、本当に絵の勉強をしていいのかな。 ・前は絵を描くと叱られていたのに、どうしてだろう。 ・よかったです。もう、叱られないで、ずっと絵が描ける。 ・他の人とは違っていたかもしれないけど、自分は絵を描くことがずっと好きなんだ。</p> <p>○ 絵の勉強を続けて、たくさん絵を描くようになった雪舟は、どんなことを思っていたでしょう。 ・あの時、和尚さんに得意なことを見付けてもらってよかったです。 ・ぼくはやっぱり絵が大好きなんだ。 ・絵を描くことが得意なことは自分のよいところなんだ。</p> <p style="text-align: center;">じぶんらしさやじぶんのよさがわかることはすてきだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しばりつけられたときの気持ちを問い合わせ、絵を描くことはよくないことだと考えて自信をなくしている雪舟の気持ちに気付かせる。 ・ワークシートに雪舟の気持ちを書き、教師の問い合わせにより、雪舟の心の中にある疑問、不安、喜び、希望などを考えさせ、雪舟が「絵が大好きなことは自分らしさなのかもしれない」と気付き始めたことを捉えさせる。 ・雪舟がだんだんと自分のよさに気付き、喜びを感じていることに気付かせる。
3 自分のよさについて考える。	<p>○ あなたの「じぶんのよさ」を考えてみましょう。 ・○○が好きだから、自分になるかもしれない。 ・まだ、気付いていない自分のよさがあるかもしれない。 ・友達やお家の人に、私のよさを聞いてみたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見を受容的に認めることで、自分のよさに気付くことの喜びを実感できるようする。
4 教師の話を聞く。	<p>○ 先生も自分のよさに気付いたときのことを話します。</p> <p style="text-align: center;">もっとじぶんのよさをみつけていきたいな。 もっとじぶんについてしりたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が自分のよさに気付いた経験について話をし、「自分のよさをもっと見付けていきたい」という意欲を高め、「じぶんたんけん2」の活動につなげる。
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさや自分のよさを意識することのうれしさや喜びに気付くことができたか。 ・もっと自分のよさを見付けていきたいという意欲を高めることができたか。 	